第３回海南市立小中学校適正規模等審議会
議事の要旨

<table>
<tr><td>日　　時</td><td>令和３年 12 月 16 日(木) 午後７時～午後９時 20 分</td></tr>
<tr><td>場　　所</td><td>海南市役所　２階　第２委員会室</td></tr>
<tr><td>委員の出席状況</td><td>
<table>
<tr><td>添田</td><td>児嶋</td><td>谷所</td><td>熊代</td><td>田上</td><td>有木</td><td>内藤</td><td>坂本</td><td>新田</td><td>田中</td><td>郡</td></tr>
<tr><td>出席</td><td>出席</td><td>出席</td><td>出席</td><td>出席</td><td>出席</td><td>出席</td><td>出席</td><td>出席</td><td>出席</td><td>出席</td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>事務局等出席者</td><td>○事務局
西原教育長、中野教育次長、藤岡教育委員会総務課長、日高学校教育課長、
岡島教育委員会総務課課長補佐、福田学校教育課課長補佐、
雨乞教育委員会総務課教育企画係長
○教育委員（関係者）
露峯委員、中山委員、嶋田委員</td></tr>
<tr><td>議題等</td><td>１　開会
２　議題
（１）海南市における小・中学校の適正な学校規模の基本的な考え方について
①中学校の適正な学校規模について
②中学校の学校規模の適正化について検討を始める基準について
③小学校の適正な学校規模について
④小学校の学校規模の適正化について検討を始める基準について
（２）その他
３　その他</td></tr>
<tr><td>審議経過</td><td>■議題（１）のうち中学校分（①・②）について、事務局から説明後、質疑応答。
■議題（１）のうち小学校分（③・④）について、事務局から説明後、質疑応答。
■事務局から次回の開催日程について説明。

<u>※資料の修正点</u>
<table>
<tr><th rowspan="2">資料</th><th colspan="2" rowspan="2">修正箇所</th><th colspan="2">修正内容</th></tr>
<tr><th>修正前</th><th>修正後</th></tr>
<tr><td rowspan="3">令和３年度 海南市立中学校 生徒数･学級数･教員配置数等一覧
【第２回審議会配布資料】</td><td colspan="2">教科名</td><td>保険体育</td><td>保<u>健</u>体育</td></tr>
<tr><td rowspan="2">海南中</td><td>教員数(計)</td><td>14</td><td><u>13</u></td></tr>
<tr><td>保健体育</td><td>2</td><td><u>1</u></td></tr>
</table>
</td></tr>
</table>

質疑応答の内容等	**■議題（１）海南市における小・中学校の適正な学校規模の基本的な考え方について** **①中学校の適正な学校規模について** **【委員】** アンケートでもクラス替えを望む意見が出ており、１学年２学級、学校全体で６学級が１つの検討基準になると思う。今後、海南市の人口が減っていく中で９学級は現実的に不可能だと思うので、まずは６学級程度を目指すのが良いと考える。 **【委員】** 子供たちにとってクラス替えは人間関係や競争心を育む上で大事なことなので、１学年２学級以上という規模は良いと思う。「２学級よりも３学級」という形でより大きい規模を望むが、少なくとも２学級が望ましいと考える。 また、教員側としても、２学級あるとＡのクラスの授業での反応を見てＢのクラスの授業に反映できるなど、授業の作り方という点でも１つの基準になってくるのではないかと思う。 **【委員】** 学校運営面で言うと２学級以上が良いと思う。昔、教えていた４学級の学校ではクラス替えもでき活気があった。例えば英語は週４時間あるが、４学級あれば週 16 時間を全て一人で担当でき、英語の先生が学校に３人配置されることになるので一番理想だと思うが、現実を見ると、海南市にとって適正な規模は２学級だと考える。 **【委員】** 私自身、４学級の中で中学３年間を過ごしたが、生徒の立場からしても活気があり子供同士の性格や考え方に多様性があった。小学生の時とは異なり、自分の頭でいろいろなことを考えられる年齢になってくるので、様々な考え方や性格の友達に触れるということが大切だと思う。ただ、海南市の実情を考えると２学級が現実的なラインだと考える。あとは、１学級当たりの人数が重要になってくる。１学級当たりの人数を今よりも少ない人数で分けることができれば、学級数も増え、先生の目も行き届きやすくなるので、そろそろ国や県で基準を見直す時期に来ているのではないかと思う。 **【会長】** １学級当たりの人数は、市で変更することができないが、「もう少し減らしてほしい」という保護者の意見はあると思う。ただ、下限がどの程度かという問題が一方ではある。 **【委員】** 有田市の例では、４中学校を統合するという形で、一番少ない初島中学校は学校全体で 20 数人しかいないという状態である。ただ、統合すると１校にな

ってしまうため、保護者からはスクールバスの導入についての意見が挙がっている。海南市も２学級以上という形で考えていった方がよいと思う。

【会長】

保護者の中にも「１校にすればよい」という意見があったが、現時点において、全市で１校や２校という議論をするのは時期尚早と思う。今後も減少傾向が続き、２学級ある学校でも運営が厳しいという状況になれば、１つの手段としてはあり得る。

中学校の適正な規模としては、２学級はあることが望ましいという考え方でよいか。

【全委員】

よい。

【会長】

それでは、適正な規模は学校全体で６学級（特別支援学級を除く）とする。また、１学級当たりの生徒数については、アンケートでも意見が出ていたが、「１学級当たりの人数は少ない方が良い」という意見は「一人ひとりの子供をしっかりと見てほしい」という気持ちの表れだと思うので、その点について配慮していただきたいということを留意点として添える形にさせていただく。

②中学校の学校規模の適正化について検討を始める基準について

【委員】

内海小学校では１年生から６年生までずっと１学級で過ごし、第三中学校では２学級となるが、小学校の６年間は人間関係が固定されるので、クラス替えができるように考えていただきたい。

【会長】

先ほど２学級が適正という結論になったが、１学級になるとすぐに駄目という話ではなく、人数よりも環境の問題だと思う。１小学校・１中学校でクラス替えができない人数で９年間過ごすという環境について、どのように捉えるか。

【委員】

性格的に合う子も合わない子もいる中で少しずつ成長していくことが大切である。試練を与えるということではないが、ある程度の人間関係の中で学べることもある。小学校から中学校に進む中で少しずつ大きな規模に慣れていかないと、社会に出たときに本当に大変である。「小規模な学校では一人ひとりに目を向けてもらえて良い」という保護者の気持ちも分かるが、人間関係を学んでいく上では一定の人数が必要と考える。

【委員】

	これまで人数の話をしているが、人数ではなく小学校から中学校、高校と進む中で世界が広がることが大切だと考える。少人数でもよいが、例えば違う地域の人と一緒になることで今まで自分が過ごしてきた世界とは違う世界を知ることが非常に大切である。小学校から中学校まで全く同じ顔ぶれで過ごすことは、悪いとは言わないが世界は広がりにくいと思う。違う地域の人たちが一緒になることに意味があるので、同じ顔触れで９年間過ごすという状況になったときが検討を始める最初の段階になるのではないかと考える。 **【委員】** １小学校・１中学校の状態が、一番課題がある。自分の子は中学校に進学する時に別の小学校の子と一緒になることへの期待感が大きい。そういう点が人間関係の幅を広げる上で大事だと感じる。 **【委員】** 生徒や保護者の視点ではなく、「指導する教職員にとってどのような状態がやりやすいのか」という視点で考えた方がよいのではないか。昔は学級数が多かったが今は１学年１学級という状況の中で、現役の先生はどのように感じているのかという視点から考えた方がよいと思う。 **【委員】** 私は、固定されない方が良いという考えを持っている。中学校では１年生から３年生まで持ち上がる学校が多いが、私は学校を運営する際には１年単位で考える。教師と生徒が合わない場合もあり、合わない先生と生徒が３年間一緒という状況は気の毒である。合う子も合わない子もいる中で毎年替わっていくことが理想であり、それが「学級数は多い方が良い」と考える１つの理由でもある。 **【委員】** 先生にとっても、クラスのメンバーが替われば、また違うクラス作りができるようになる。また、担任が２人以上いると授業や学級運営のことで相談ができる。９年間全く同じという状態は、先生にとっても子供にとっても苦しいことだと思う。 **【会長】** 小学校で６年間同じメンバーだと、子供たちの関係性が６年間でできあがってしまう。中学校でほかの子が入れば違うと思うが、関係性ができあがっている集団に先生が入っても変えることは難しい。例えば、「ほとんど発言しない」と言われている子供を変えるために先生が働きかけても、周りがそういう目で見ている中で変えることは難しいのが事実である。子供自身も変わりたいときがあると思うが、変わるきっかけを与えられる環境をどのように作っ

	ていくかという観点で一番簡単な方法としては、ほかの子を入れることだと思う。 **【委員】** 公立学校の教員は異動があるので９年間一緒ということはなく、小学校と中学校で分かれている。状況がいろいろ異なる中で１つの基準に決めることはできないと思うので、この審議会をもっと続けて議論していってもよいのではないかと考えている。 また､海南市では今後10年間で大規模な土地開発が行われる予定があるか。 **【事務局】** 今後10年間の予定は現時点ではない。今後の社会情勢によっては民間による土地開発がないこともないであろうということしか言えない。 **【委員】** 委員としては、現状で適正規模を考えるということでよいか。 **【事務局】** よい。 **【会長】** 現状のままでは大きな課題があるのではないかということで検討を始めていただく基準としては、やはり１小学校・１中学校の形で９年間クラス替えができない状況になる場合において、今後解消できる見込みがなく生徒数が減少していくという状況であれば、２学級にできる方策を考える必要があると考える。他地域では、複数の小学校が集まっても中学校が１学級で人数も 10人程度という学校があるが、先ほどの意見にあった「世界が広がる」という意味では、違う地域の人が入るので、一定の環境の変化は見られる。ただ、そういった場合には、今後、小学校が問題になってくるので、小学校が課題になったときに中学校も合わせて検討することになると思われる。 また、教員の側から見ると１教科に１人という状況は非常に苦しく、特に、今は新任の先生が多いので、初任で１年生から３年生まで１人で教えなければならない状況になる。 **【委員】** 教職員が一番やりやすい環境で学校運営をできれば、子供たちも良い環境で教育を受けられる。先生にとってやりづらい環境であれば、先生のストレスが子供たちに伝わるので、先生方の思いを教育委員会が汲み取って働きやすい環境を作るのが最適な形だと考える。 **【会長】**

先生がストレスのない環境で働けると子供への対応も十分にできるという観点で言うと、やはり１教科に２人はいた方が良いと思うがどうか。

【委員】

もちろん１教科に２人以上いる方が良い。先ほどの新任の先生の例もあるが、１年生から３年生まで全て自分で教材研究をして、それが子供たちにとって良い学習なのかどうかを自分１人で考えながら進めるよりも、２人、３人いる方が相談もしやすく、働き方としてもありがたい状態である。

【会長】

同じ授業を２回やるとどこが悪かったか分かり、３回やると良いところも悪いところも分かる。時間数が同じでも、同じ授業を３回やるのと全く違う授業を３回やるのでは負担が全く異なる。特に中学校については、受検の関係で教えるべきことがシビアにあるので、全学年を担当して毎回違う授業をするのは大変である。

【委員】

先ほど会長が「生徒も変わるきっかけがほしい」という話をされたが、そのとおりである。２学級あれば新しい出会いがあり、それが変わるきっかけになるかもしれないので、子供たちに出会いを与えてあげたいと強く思う。

【会長】

私も常々そう思っているが、上手に出会わせてあげないといけないところもある。小規模の中で育ってきた子が、いきなり４学級の中学校に入ってしまうと苦しいこともあると思うので、特に環境の違う小学校が集まってくる場合においては、これまで育ってきた環境に十分配慮する必要があると考える。

③小学校の適正な学校規模について

④小学校の学校規模の適正化について検討を始める基準について

【委員】

大野小学校の６年生が 40 人だが特別支援学級の児童もおり実質は 38 人ということであるが、大野小学校の保護者のアンケートを見ると、「今のクラスは１クラス 40 人で、担任の先生も１人で 40 人は目が届きにくい」という意見が書かれている。おそらく保護者は 40 人と思っており、同じ 40 人の５年生は２クラスになっているが、どういうことか。

【事務局】

学級の児童数について、大野小学校の６年生は 38 名だが、教科によっては特別支援学級の子が普通学級に入って交流する授業がある。体育や総合的な学習の時間には一緒に活動していると思われ、そこを捉えると 40 人の学級になる。ただ、授業数のうち半数以上は特別支援学級での授業という規定があ

り、その点をきちんと説明していれば、どちらの学級に在籍しているかという点についての保護者の認識も変わると思う。

【会長】

どのように説明したとしても、「特別支援学級の子も含めて同じ学級の子である」という気持ちがあると思われる。文部科学省が 40 人として２学級に分けてくれれば問題ないが、そうなると特別支援学級の先生が配置されないことになってしまうという事情がある。ただ、ぎりぎりの人数で１学級になっている場合は、授業の展開の仕方として、なるべく人数を分けた形で指導する方法もあるので、そういった指導方法を活用することも大事と考える。

【委員】

一般的には、できるだけ少人数になるような形を取ったり、ティームティーチングという形で先生を入れたりするほか、特別支援学級の担任が交流学級に来てフォローするということもある。

【会長】

１学級の人数については、小学校でも保護者から「なるべく少ない方が良い」という意見を頂いているが、そうならない場合でも様々な学習形態で少人数指導等を組み入れながら対応していくという形になるかと思う。

【委員】

小学生の保護者のアンケートを見ると、人数が少ない学校と多い学校で意見が分かれている。大規模な学校では「目が行き届いていないのではないか」という意見があり、小規模な学校では「６年間固定されるので、いじめ等があった場合にどうすればよいか」といった意見が多く見受けられ、切実な意見であると感じた。

【会長】

ご指摘のとおりであり、その点についても今後は教育委員会で配慮いただく必要があると思うが、この審議会に任されていることとして、まず１学年の学級数について、中学校は「２学級」という話になったが、小学校の場合、現状をよしとすれば「１学級」ということになるが、一方で２学級の学校もあるので、規模としては「１～２学級」という現状を肯定的に捉えていくこととなる。ただ、１学級の学校を２学級にしていくのは難しいと考えられるので、「１～２学級」を適正と考えるということでどうか。

【委員】

特別支援学校も人数が増えていると聞いたが、特別支援学級の児童は支援学校に移ったりしないのか。

【会長】

	基本的には６年間在籍する。入学する際に、どちらの学校に行くかが決まり、特別な事情がない限りはそのまま在籍することとなる。 **【委員】** それは自分の意思で決めるのか。 **【会長】** 入学する際に、子供の状況と保護者の希望を踏まえて決める。 **【委員】** 南野上小学校は手引に書かれている「１～５学級」に該当し、手引では「統合等により適正規模に近づけることを検討する」といったことが書かれているが、南野上小学校では検討しているのか。 **【事務局】** 南野上小学校の児童数がかなり減っている中で、何年も前から保護者や地域の意向を聞いてきているが、当初は「地域に小学校を残しておいてほしい」という強い意向があった。男女比が偏ったり同級生が少なくなったりする中で、もう少し規模の大きい学校を望む保護者も出てきているが、そのような経過を辿って現在に至っている。 **【委員】** 次ケ谷地区の自治会長から「８年ぐらい前まではそのような意見の保護者もいたが、最近は耳にしない」という話を聞いた。地域や保護者の希望は分かるが、現実を見ると厳しい状況だと思う。統合すると通学距離が長くなる子もいるので難しいとは思うが、検討しなければいけない状況にあるのであれば、前向きに考えていただきたい。 **【事務局】** 小学校の場合は近くの学校に通わせたいという希望もある。また、南野上小学校の場合は校区が複雑で、貴志川に橋が架かったことにより中野上小学校の方が近い地区ができたことなど様々な事情がある。教育委員会としても、適正配置については毎年検討している中で、今回の審議会設置に至っている。 **【会長】** 適正規模を「１～２学級」とすれば、例えば、北野上小学校では８～９人の学年もあるが、とりあえず１学年１学級という形になっており、それに比べて南野上小学校は完全複式学級となっている。それでは複式学級になると駄目なのかと言うと、そうではない部分もあり、日本は複式での教育について研究が進んでおり、何十年も積み重ねてきたノウハウがある。また、違う学年が一緒に学ぶことのメリットもあると思う。ただ、南野上小学校の場合は、児童数が１人の学年もある。近年、「主体的・対話的で深い学び」ということで対話の中で学んでいく教育を進めようとしているが、１人や２人では話し合った

り意見を交換したりすることが難しい。８人程度いれば４人ずつに分かれることができるが、極端に少ない場合には課題がある。

【委員】

複式が悪いとは思っていないが、南野上小学校については通学の安全面で問題がある。通学路を見た上で学校の在り方を検討していただきたいと思う。

【会長】

通学路については、適正配置を超えたところで考える必要がある。今回の話は、統合することによって通学の危険性が低減されるといった趣旨だと思うが、統廃合に関係なく通学が危険な場合にはスクールバスを導入するなど、様々なことを考えていかなければならない。また、一部の人にとっては安全になるが、一部の人にとっては距離が遠くなるといった問題もあるので、その点については、次回の審議会で配慮すべき事項として意見を頂きたい。

また、複式学級になっている場合には今後どうなるかを注視する必要があると考えるが、１学年２～３人という状況になると「注視する」とは言っていられない状況だと思う。全てに近い学年が複式になり、人数も２～３人になることが見込まれた段階で検討を始めるのが１つのきっかけだと考える。

【委員】

非常に様々な問題が絡んでくる中、６回の審議で答申を出すことができるのか。当然、答申を出すという方向で審議を進めているが、答申を出してから実行されるまで５年程度はかかると思う。その時点で児童数が０人の学年が出てくる可能性もあり慎重に考える必要があるので、６回で足りなければ何回か増やすぐらいの意気込みでないと答申は出せないのではないかと感じる。

また、和歌山市の伏虎義務教育学校は、かなりの数の学校を統合したため通学区域がかなり広がった。もちろんメリットもあると思うが、デメリットが出てきていないか、もし情報があれば教えていただきたい。

【事務局】

メリットとデメリットについては、和歌山市で検証していると思うが、こちらでは把握していない。

【会長】

この審議会で一定の方向性を出すとしても、今後、もう少し抜本的な見直しについても考える必要があるのではないかということで、義務教育学校の話を出されたと思うが、旧市街の黒江小学校や日方小学校など人数が減っているところについては、義務教育学校という在り方について考えていくことも適正配置に関する１つの発展的な考え方だと思う。今回、「基本的な考え方」という表現にしているのは、今後何年間も通用するものというよりは現時点

	における考え方であり、今後、抜本的に大きく変えることを望む方が多くなれば、市として改めて検討していただきたいと考えている。 ここまでの審議を踏まえると、検討を始める基準としては「複式学級になっている場合」ということになるが、その中でも特に学年の児童数が２～３人になっている場合には早急に検討する必要があると考える。なお、今から考えてもすぐには対応できないので、統合されるまでの間は、日常の教育活動の中でそういった点に配慮した活動を取り入れながら対応いただくことになると考える。 **【委員】** 北野上小学校は、今年度に初めて複式になるという現実に直面し、保護者が複式を回避するために署名活動を行った。その理由の１つとして、８名と８名の 16 名を先生１人で見ることができるのかという話があった。その中では、逆に人数がもっと少なければ複式学級でもよいという話もあり、「一人ひとりに先生の目が行き届く範囲で子供たちを見てもらいたい」というのが第一の希望だった。北野上小学校では、児童も保護者も少ない状態に慣れつつあるが、その 16 名が複式学級になることについて保護者も先生方も不安を感じて複式を回避してほしいという動きが起こったというのが実情である。そのため、北野上小学校の保護者の中には「学年の人数が２～３人になったら検討を始めてほしい」と思っていない人もいるかもしれない。 **【会長】** 北野上小学校は複式ではないため「複式を避けたい」という保護者の思いがあったと考えるが、南野上小学校のような複式の学校では、何人になっても複式の状態が変わらないので、「これ以上減ると良くない」という形で後押しする必要があると考えている。また、４人であれば教育効果が上がるが 16 人では効果が上がらないかと言うと、それはどうかと思う。先生の技量にもよるが、複式学級でうまく回っている授業では驚くくらい子供が活躍しているので、なかなか複式を否定できないところがある。先生が片方の学年を教えている間に、子供が司会をして話をまとめるといった形で子供が主体的に関わっている様子を見ると、複式も悪くないと思ってしまうところもある。北野上小学校では複式になることを非常に恐れているということも理解するので、複式になった時点で検討を始めていただかなければいけないことだと思う。南野上小学校については、早急に検討しないと今求められている様々な授業展開が難しいところに至っている。 **【委員】** 今回は２・３年生に限った話になるが、今のメンバーを複式にした場合、子供たちの個性を考えると学級崩壊になるのではないかという危惧があり、教育委員会からも視察に来ていただいた結果、子供たちの様子を見て今回の措

	置に至ったということである。子供たちの資質を見ていただいた上で、複式がふさわしいかどうかを判断していただけたことはよかったと思う。 **【会長】** 　限られた人数の中では１人の比重が大きくなるので、どのようなメンバーになるかによって異なるということは、人数の少ない学級ではよくあることである。 　「海南市における小・中学校の適正な学校規模の基本的な考え方」については、本日、委員の皆様から頂いた意見を踏まえ、事務局で整理していただいた上で、次回の冒頭で意見を頂くという形にする。